

子育ての秘訣は「応援」!

「子育て実践交流会」



12月3日(日)、保健福祉センターなわで「大山町子育て実践交流会」が開かれました。この交流会は、「育て！心豊かでたくましいだいせんの子」をテーマに、教育委員会主催で行われたものです。

当日は、10月に行った「親学講座」の講師、三浦清一郎さんによる講演と、インタビュ・ダイアログ(代表

表質問)をとおして、子育てのあり方について考えました。

事例紹介 「寺子屋活動」

講演では、小学校を活動拠点にした福岡県みやこ町の「寺子屋活動」をとおして、子どもの自立と元気が熟年指導者の生きがいにつながり、医療・介護費の軽減から財政の節減にもつながった事例が紹介されました。

また、教育指導の3原則と子どもたちを見守り育てるために必要な声かけ「応援」のキーワードなどを住宅建築の順序にたとえ、基礎づくりをきつちりとなないと一人前の大人には育たないことを説かれました。

「応援」のためのキーワード

- ・きみならできる!
- ・「すじ」がいい!
- ・「みどころ」がある!
- ・将来が楽しみだ!



いことなどを説かれました。

しつけ(躾)とは

インタビュ・ダイアログでは、保護者、保育所、小学校の代表と、会場から次のような質問が三浦先生にぶつけられました。

Q. 「しつけ」が虐待と紙一重と感ずる場合がある。「しつけが大事」が暴走しないようなバランスはどう考えるべきか?

三浦 子育てにビジョンがあるかどうか。目先の行動、成長だけにとらわれてはいないか。躾は身体が美しいと書く。身体を傷つけるのはしつけではない。

Q. 小学校統合で、地域から小学校がなくなつて遠くまでスクールバスで通うことに。毎日、歩いて通い、地域の人とかかわりながら、地元の小学校で学ぶことは大切だと思うが? この現状からスタートして、これから学校や地域、保護者、行政ができること、しなくてはいけないことは何か?

この質問に対してはそれぞれ

の立場から意見が出ました。三浦先生からは「行政と地域、保護者、立場によって意見が違うのは当然。相互理解が必要」とアドバイスが。

会場からの意見も活発に

休憩時間に、カードに書かれた意見や感想が会場から集められました。

- ・保護者が安心して相談できるシステム、動いてくれるシステムが必要。
- ・今やっていくことは、子育ての建前でなく実践だとわかった。
- ・子どもの育ちを大切にしたい取り組みにつながる会として、学ぶことの多い会だった。
- ・このような話し合いを、来ていない人にどう伝えていくかが課題。

など、成果や課題がたくさん寄せられました。初めての会でしたが、この会での議論が今後、子育てのいろいろな取り組みにつながっていくことが期待されます。